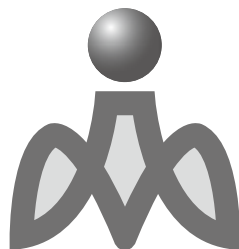


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔令和元年7月～9月実績〕
〔令和元年10月～12月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

第1四半期 令和元年7月～9月期 「調査時点：令和元年9月1日」

3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービズ業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韭 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	52	165

5. そ の 他

①本報告書のDIとは、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

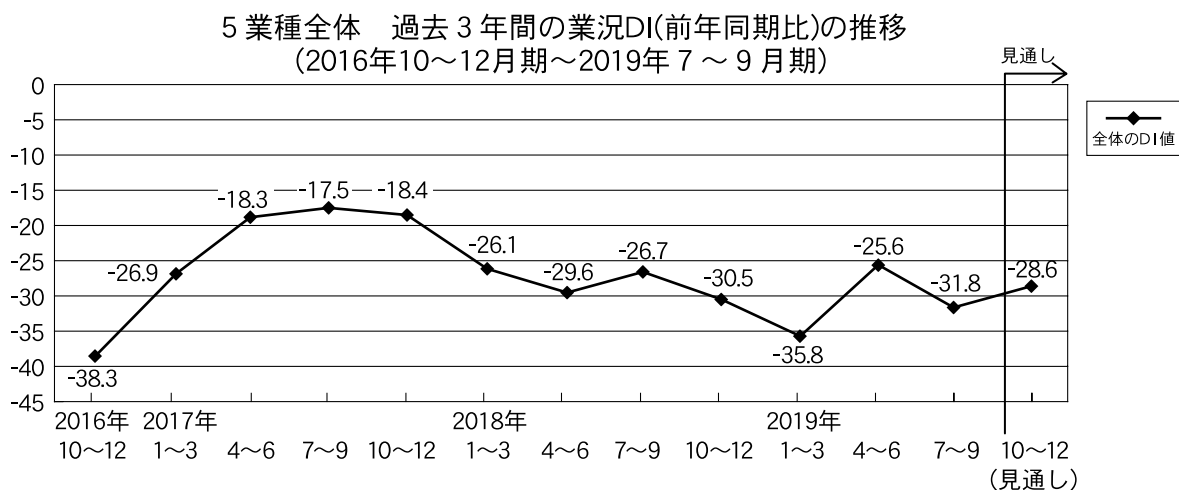
②次頁【II】1. 産業全体の業況概観については、商工会調査企業ばかりでなく、他の本県経済団体調査企業（卸売業を含む）を含んだ286サンプルによるものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断DI、及び、産業別の業況判断DIについてみる。

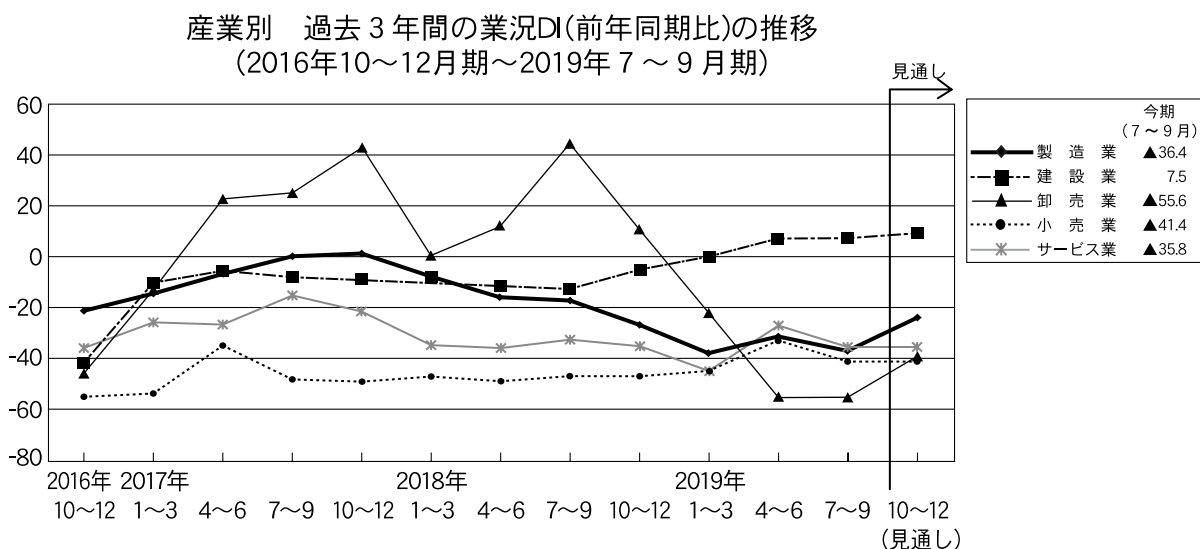
まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断DIである。今期の業況判断DIは、▲31.8と前期比で6.2ポイント悪化している。一方、来期については、▲28.6へと若干ながら改善する見通しである。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断DIである。

卸売業が▲55.6で前期と変化なし。製造業が▲36.4と前期比で▲5.7ポイント、建設業が7.5と前期比で▲0.2ポイント、小売業が▲41.4と前期比で▲8.0ポイント、サービス業が▲35.8と▲9.0ポイント悪化している。

来期は、製造業、建設業、卸売業、サービス業が今期より改善する見通しであるが、小売業は悪化の見通しとなっている。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域等からの121企業を含めた286サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況DIについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

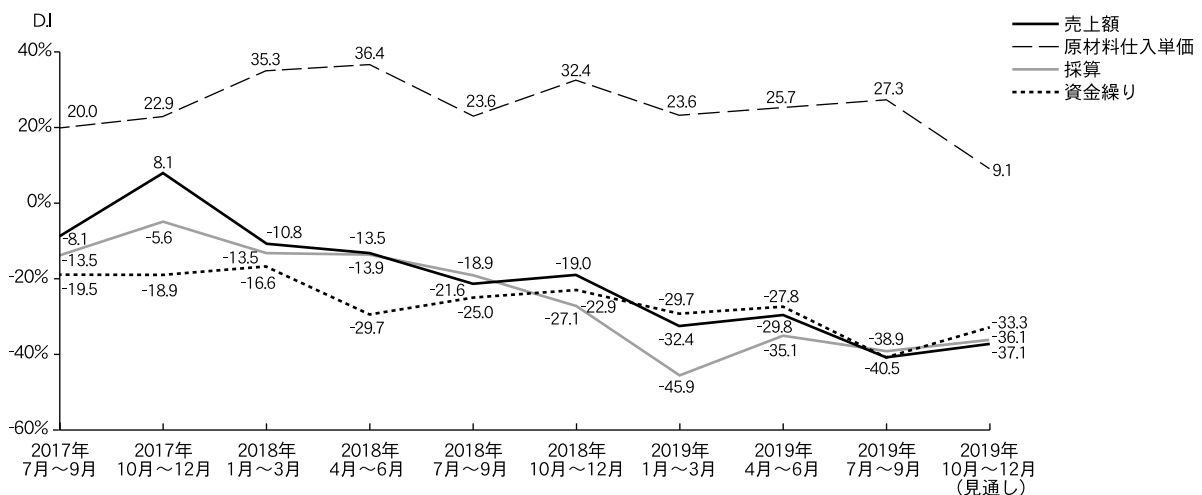
2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲40.5と前期比で10.7ポイント悪化しているものの、来期は▲37.1と改善する見通し。原材料仕入単価D Iも、今期は27.3と前期比で1.6ポイント上昇（悪化）しているものの、来期は9.1と改善する見通し。採算D Iも、今期は▲38.9と前期比で3.8ポイント悪化しているものの、来期は▲36.1と改善する見通し。資金繰りD Iも、今期は▲40.5と前期比で12.7ポイント悪化しているものの、来期は▲33.3と改善する見通しである。

今期は、全てのD Iが悪化している。一方、来期は、全てのD Iが改善の見通しである。

山梨県 製造業 主要景況項目の推移－前年同期比－



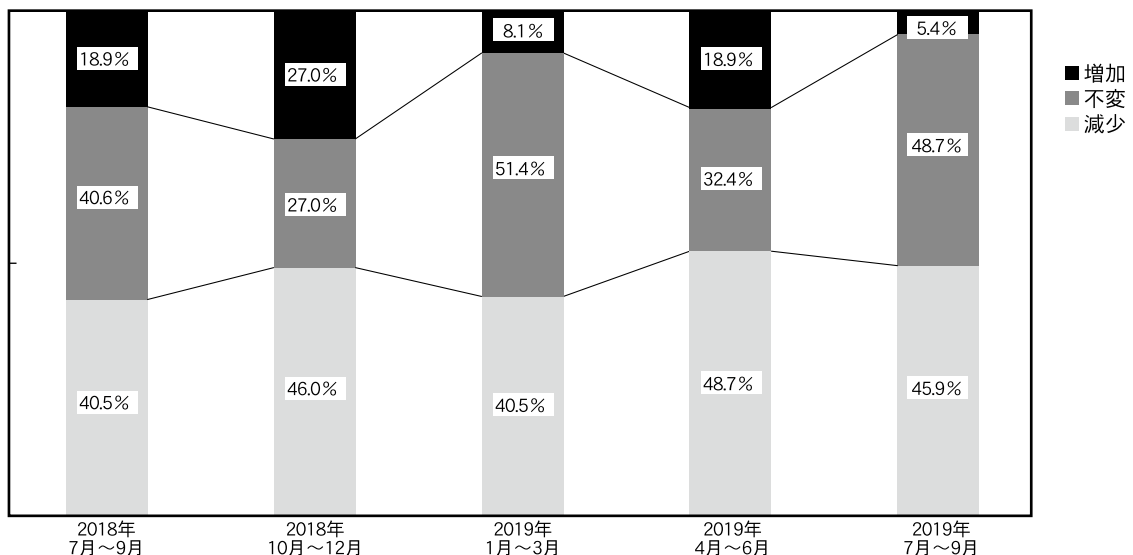
(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数37社））

「増加」と答えた企業の割合は、5.4%（2社）と減少（前期比▲5社）している。

「不変」は48.7%（18社）と増加（前期比+6社）、「減少」は45.9%（17社）と減少（前期比▲1社）している。

山梨県 製造業 売上額の状況－前年同期比－



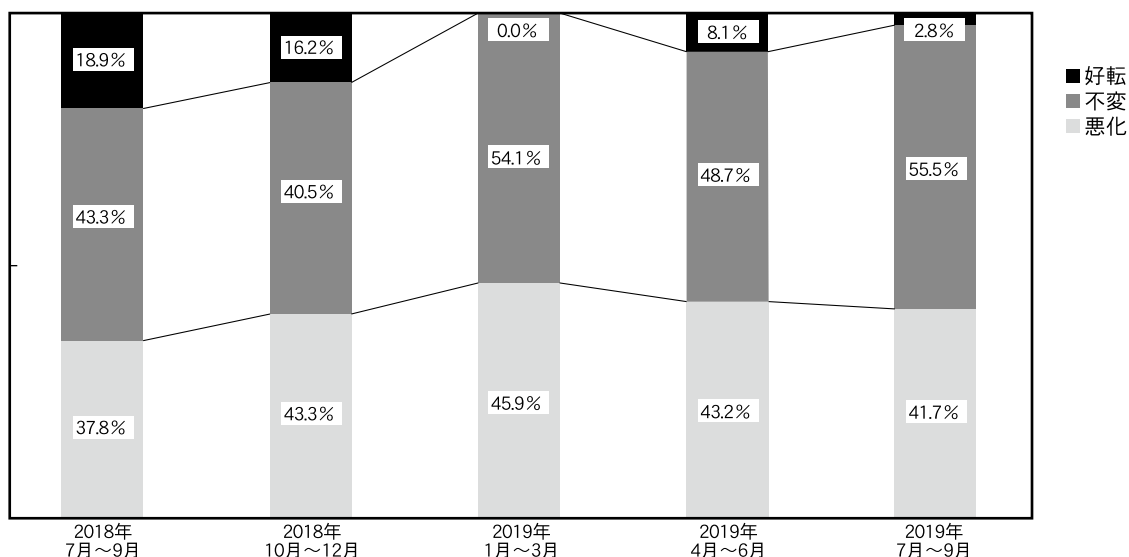
② 採算（採算D I の内容（回答企業数36社（前回37社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、2.8%（1社）と減少（前期比▲2社）している。

「不変」は55.5%（20社）と増加（前期比+2社）、「悪化」は41.7%（15社）と減少（前期比▲1社）している。

山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－

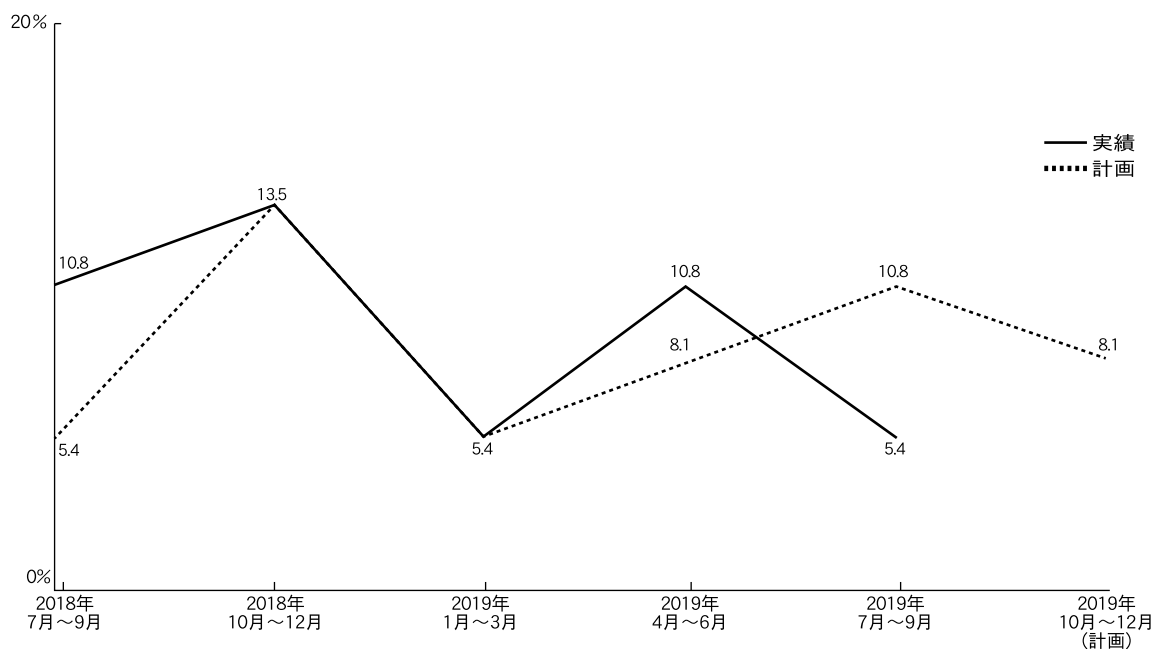


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数37社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は5.4%（2社）であった。その設備投資の内容は、「工場建物」「生産設備」「付帯設備」が1件ずつであった。

来期の計画については、8.1%（3社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「生産設備」が2件、「車両・運搬具」「福利厚生施設」が1件ずつになる。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数32社）

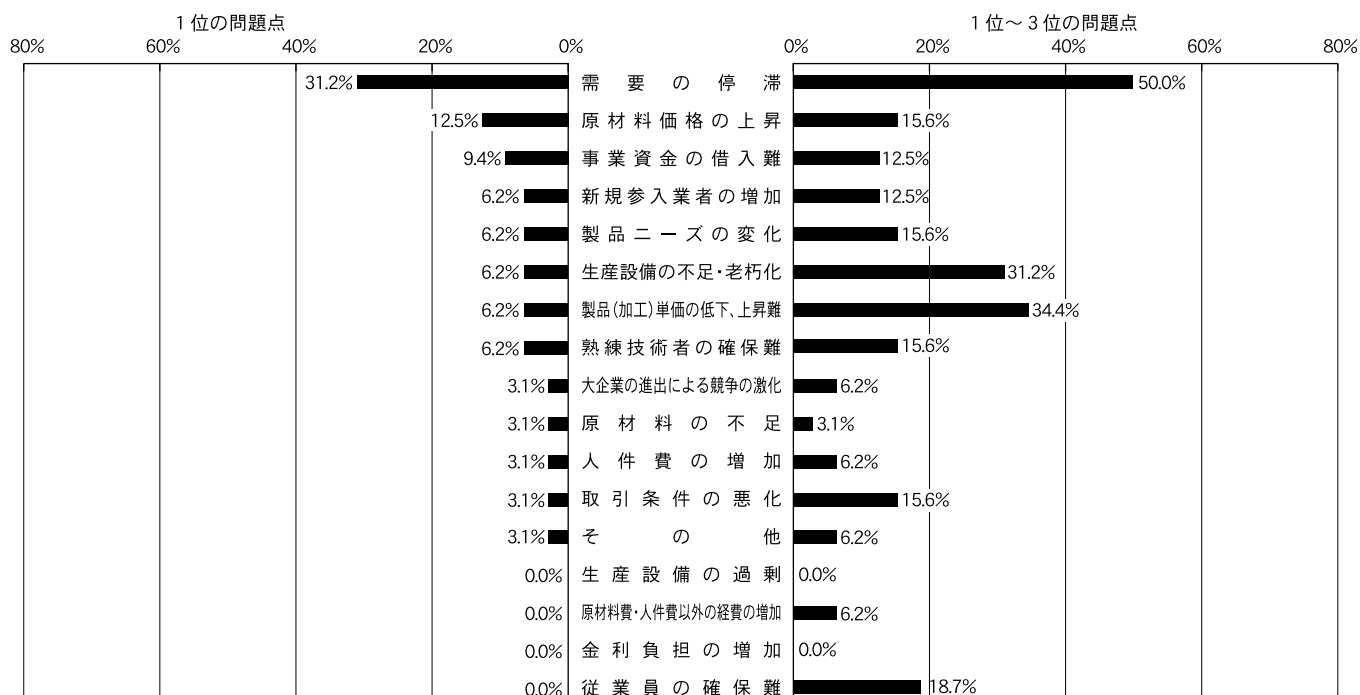
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の31.2%（10社）であり、2番目は、「原材料価格の上昇」の12.5%（4社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の50.0%（16社）であり、2番目は、「製品（加工）単価の低下、上昇難」の34.4%（11社）である。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	6	16.2
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
衣服・その他繊維製品製造業	0	0.0
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	4	10.8
金属製品製造業	2	5.4
一般機械器具製造業	13	35.1
電気機械器具製造業	3	8.1
輸送用機械器具製造業	0	0.0
その他製造業	4	10.8
合計	37	100.0

従業員規模別

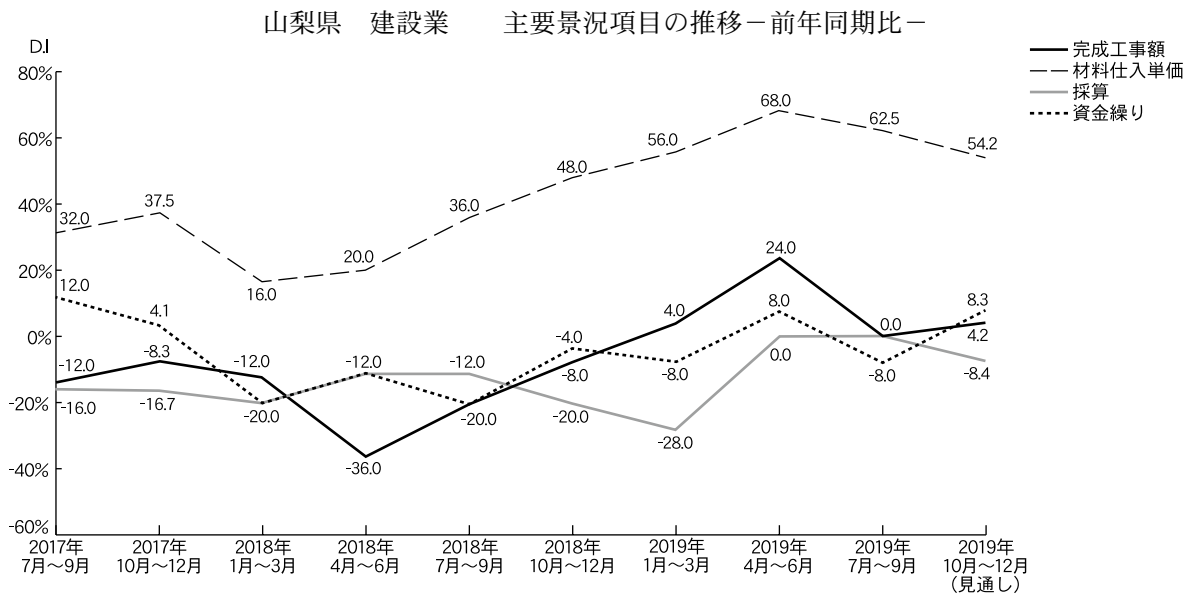
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	19	51.4	16	43.2
3人～5人以下	8	21.6	6	16.2
6人～10人以下	6	16.2	10	27.0
11人～20人以下	4	10.8	5	13.5
合計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iは、今期は0.0と前期比24.0ポイント悪化しているものの、来期は4.2と改善する見通しである。材料仕入単価D Iは、今期は62.5と前期比5.5ポイント低下（改善）しており、来期も54.2と低下（改善）する見通しである。採算D Iは、今期は0.0と前期と変化ないものの、来期は▲8.4と悪化する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲8.0と前期比16.0ポイント悪化しているものの、来期は8.3と改善する見通しである。

今期は、採算D Iは変動なし、材料仕入単価D Iは改善し、完成工事額D I、資金繰りD Iは悪化している。来期は、採算D Iを除いて改善する見通しである。

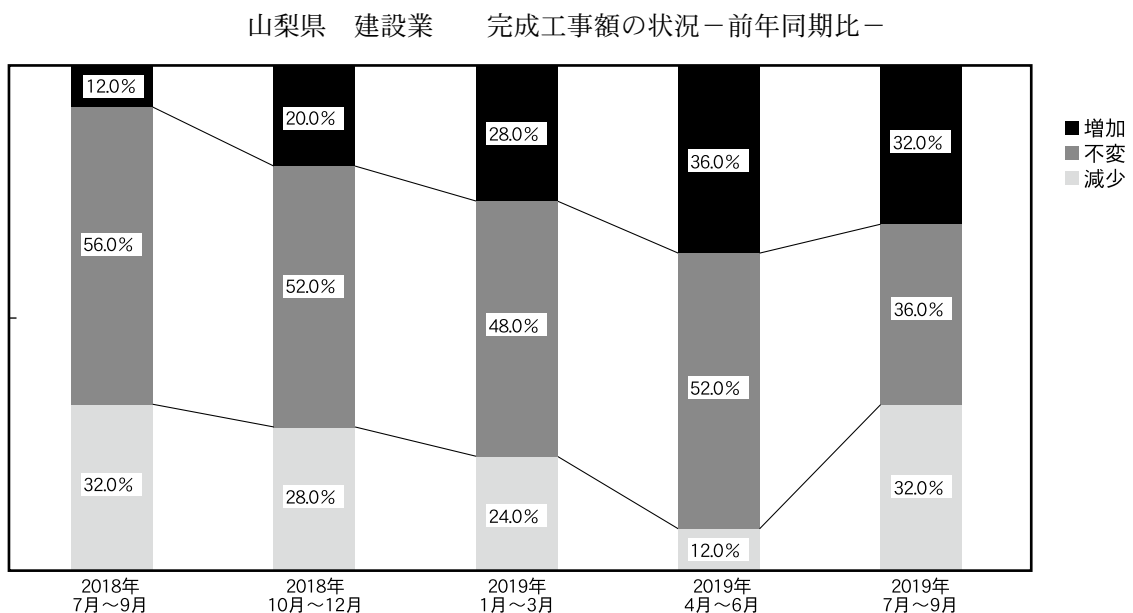


(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額D Iの内容（回答企業数25社））

「増加」と答えた企業の割合は、32.0%（8社）と減少（前期比▲1社）している。

「不変」は36.0%（9社）と減少（前期比▲4社）、「減少」は32.0%（8社）と増加（前期比+5社）している。



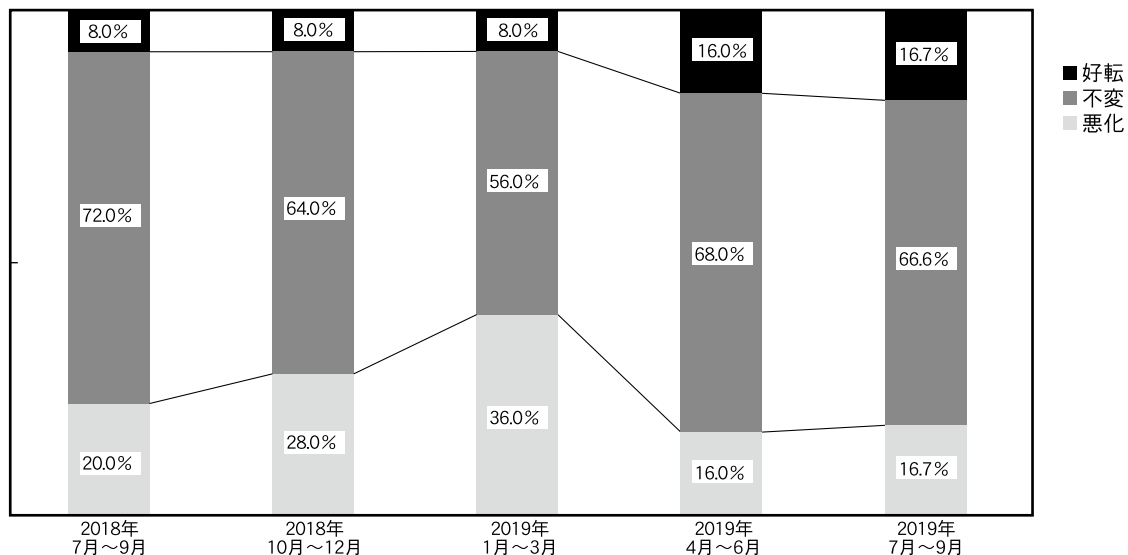
② 採算（採算D I の内容（回答企業数24社（前回25社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、16.7%（4社）と微増（企業数は横這い）している。

「不変」は66.6%（16社）と減少（前期比▲1社）、「悪化」は16.7%（4社）と微増（企業数は横這い）している。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

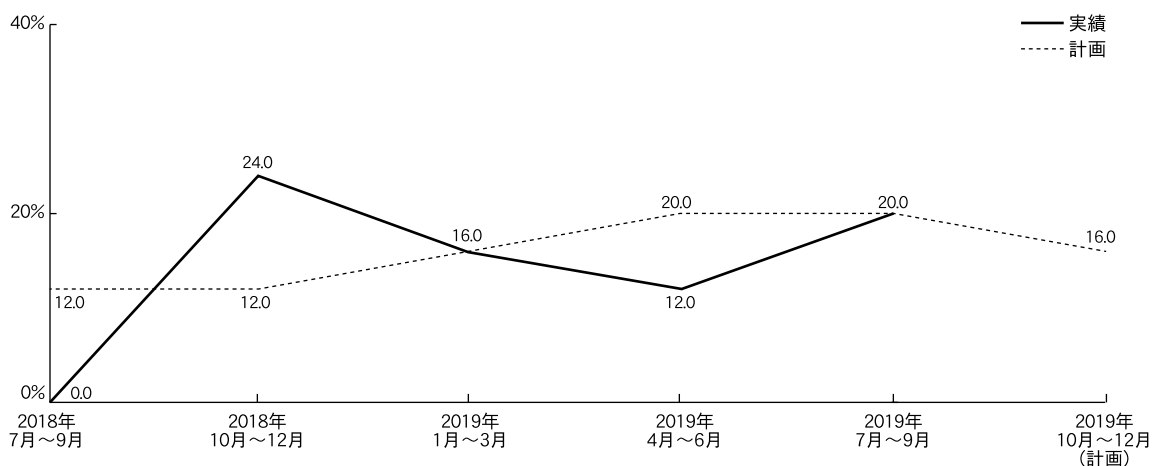


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は20.0%（5社）であった。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」「OA機器」が2件ずつ、「土地」「建設機械」「付帯設備」が1件ずつであった。

来期の計画については、16.0%（4社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「OA機器」が2件、「土地」「建物」「車両・運搬具」が1件ずつになる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



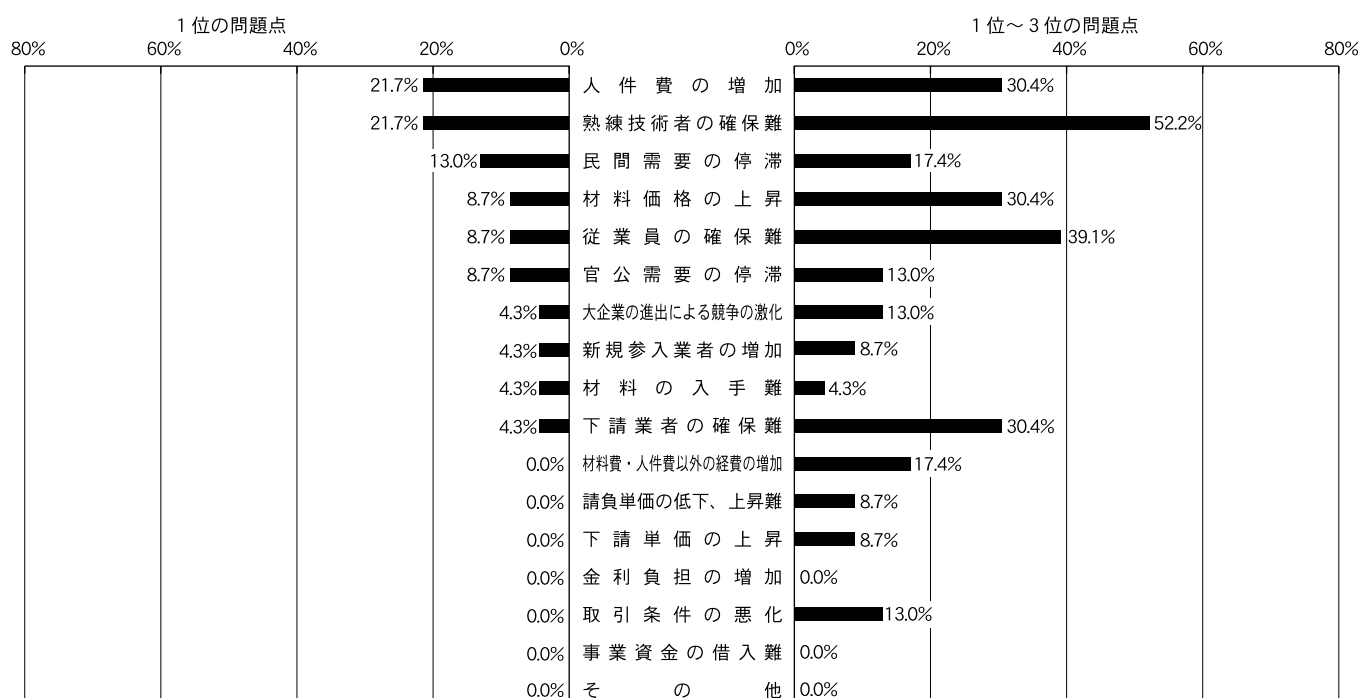
④ 経営上の問題点（回答企業数23社）

まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「人件費の増加」と「熟練技術者の確保難」との同率21.7%（5社）である。次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「熟練技術者の確保難」の52.2%（12社）であり、2番目に多かったのは、「従業員の確保難」の39.1%（9社）である。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	18	72.0
職別工事業	3	12.0
設備工事業	4	16.0
合計	25	100.0

従業員規模別

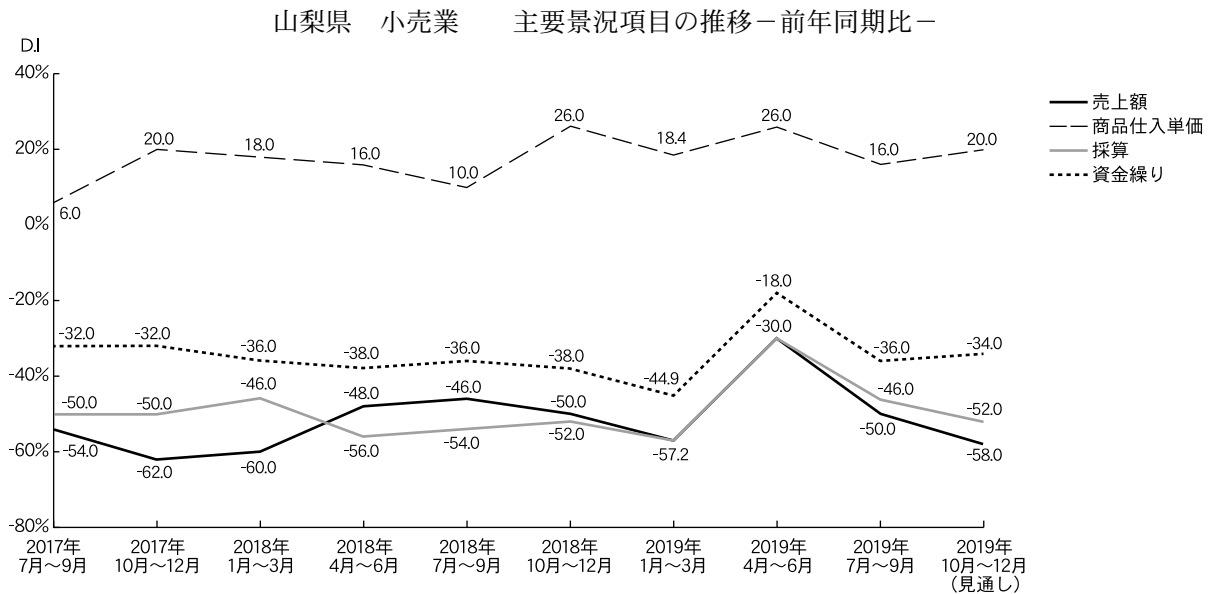
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い		企業数(%)	構成比(%)
2人以下	9	36.0	7	28.0
3人～5人以下	7	28.0	9	36.0
6人～10人以下	3	12.0	3	12.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
21人～50人以下	1	4.0	1	4.0
合計	25	100.0	25	100.0

4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲50.0と前期比で20.0ポイント悪化している。来期は▲58.0とさらに悪化する見通しである。商品仕入単価D Iは、今期は16.0と前期比で10.0ポイント低下（改善）している。一方、来期は20.0と上昇（悪化）する見通しである。採算D Iは、今期は▲46.0と前期比で16.0ポイント悪化している。来期は▲52.0とさらに悪化する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲36.0と前期比で18.0ポイント悪化しているものの、来期は▲34.0と改善する見通しである。

今期は、商品仕入単価D Iを除いて悪化している。来期は、資金繰りD Iを除いて悪化する見通しである。

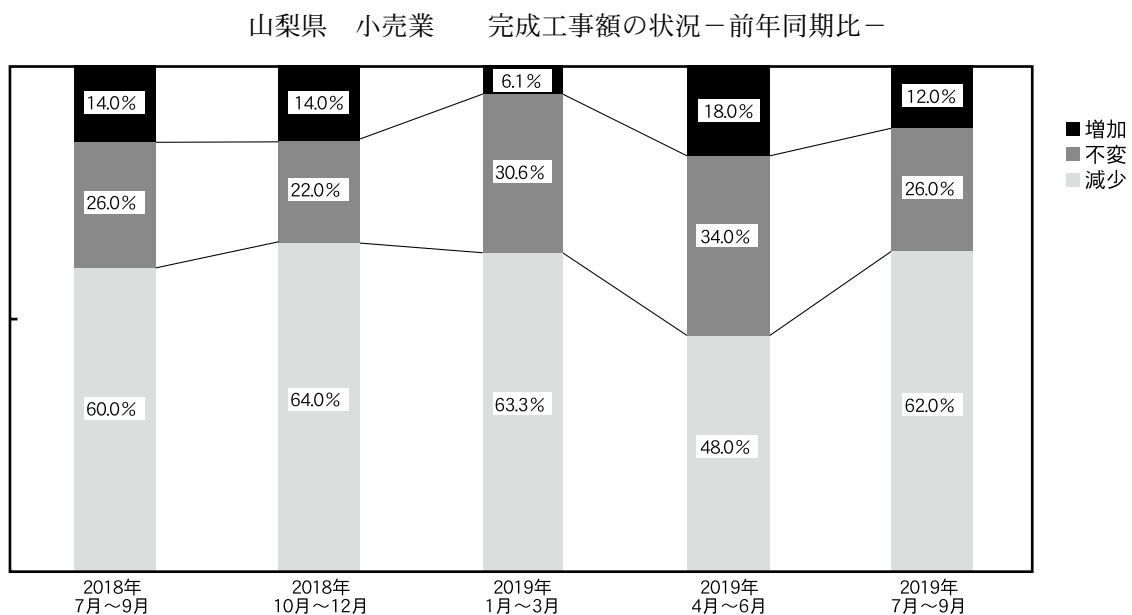


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数50社））

「増加」と答えた企業の割合は、12.0%（6社）と減少（前期比▲18社）している。

「不変」は26.0%（13社）と減少（前期比▲4社）、「減少」は62.0%（31社）と増加（前期比+22社）している。



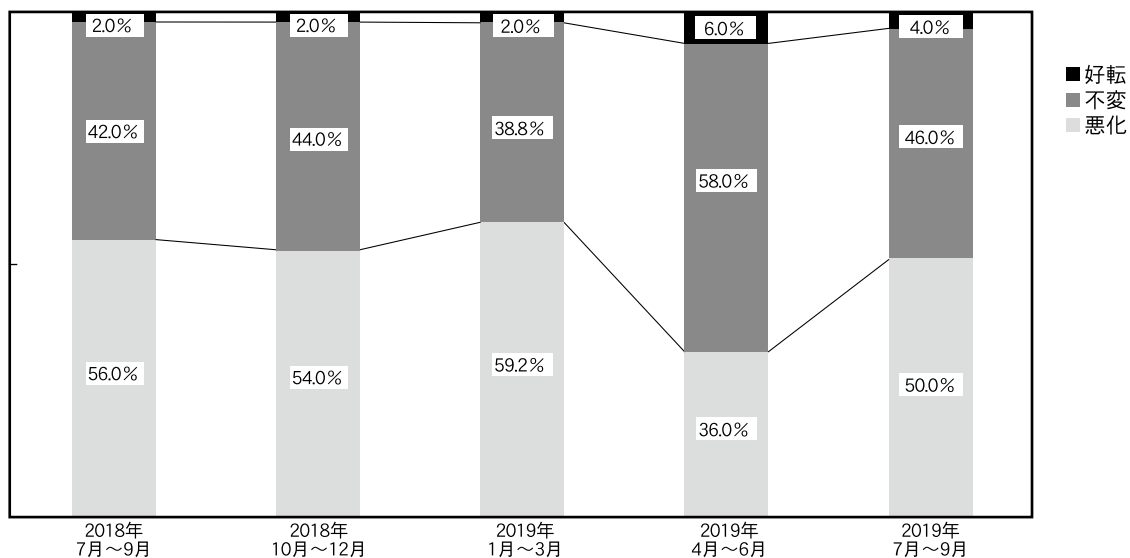
② 採算（採算D I の内容（回答企業数50社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、4.0%（2社）と減少（前期比▲1社）している。

「不変」は46.0%（23社）と減少（前期比▲6社）、「悪化」は50.0%（25社）と増加（前期比+7社）している。

山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－

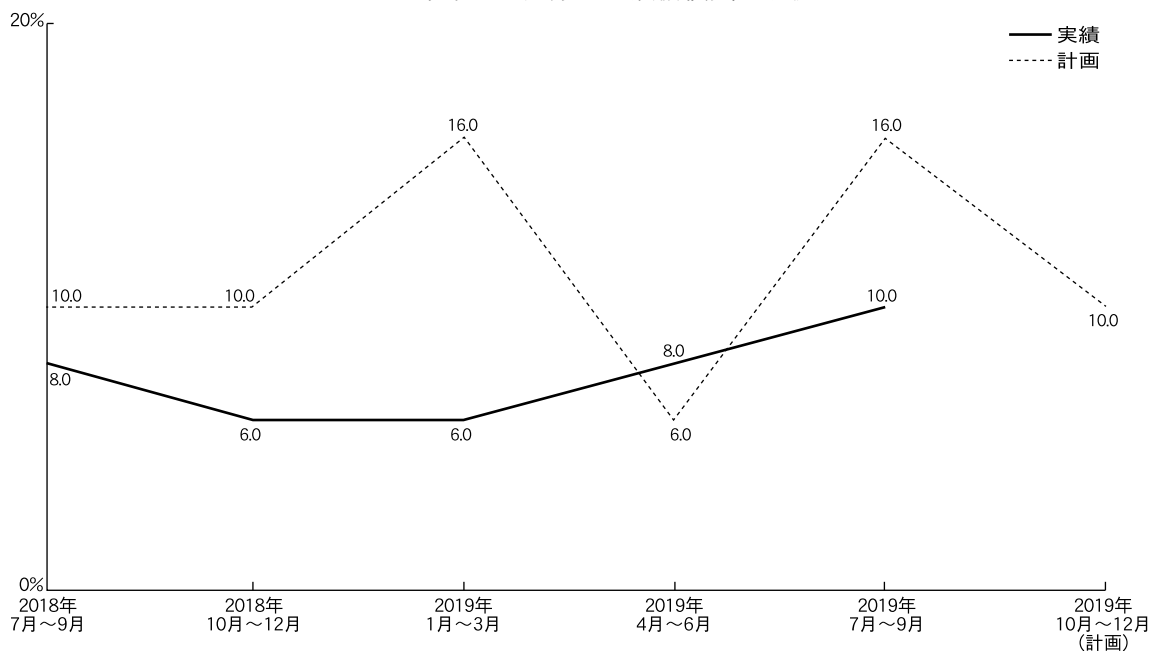


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は10.0%（5社）であった。その設備投資の内容は、「OA機器」「その他」が2件ずつ、「店舗」が1件であった。

来期の計画についても、10.0%（5社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「その他」が3件、「店舗」「販売設備」「車両・運搬具」「OA機器」が1件ずつになる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

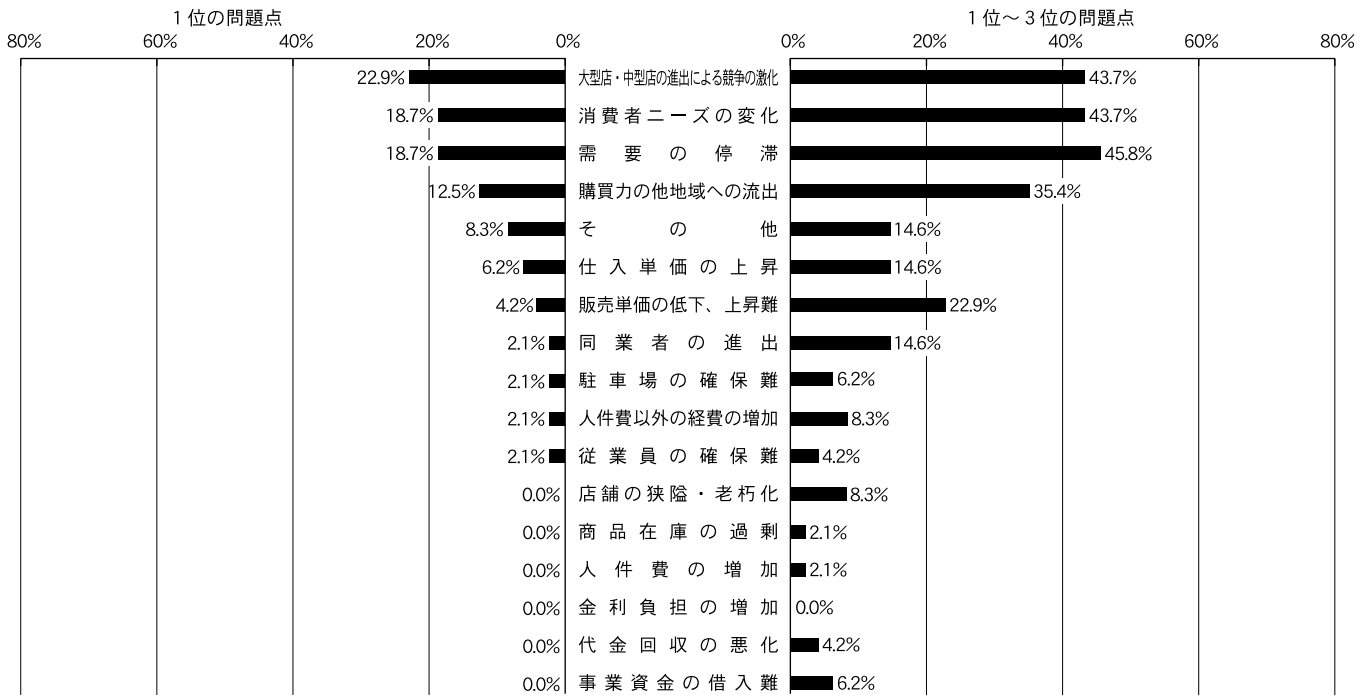
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「大型店・中型店の進出による競争の激化」の22.9%（11社）であり、2番目に多かったのは、「消費者ニーズの変化」と「需要の停滞」との同率18.7%（9社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の45.8%（22社）であり、2番目に多かったのは、「大型店・中型店の進出による競争の激化」と「消費者ニーズの変化」との同率43.7%（21社）である。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0.0
織物・衣服・身の回り品小売業	12	24.0
飲食物品小売業	17	34.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	15	30.0
合計	50	100.0

従業員規模別

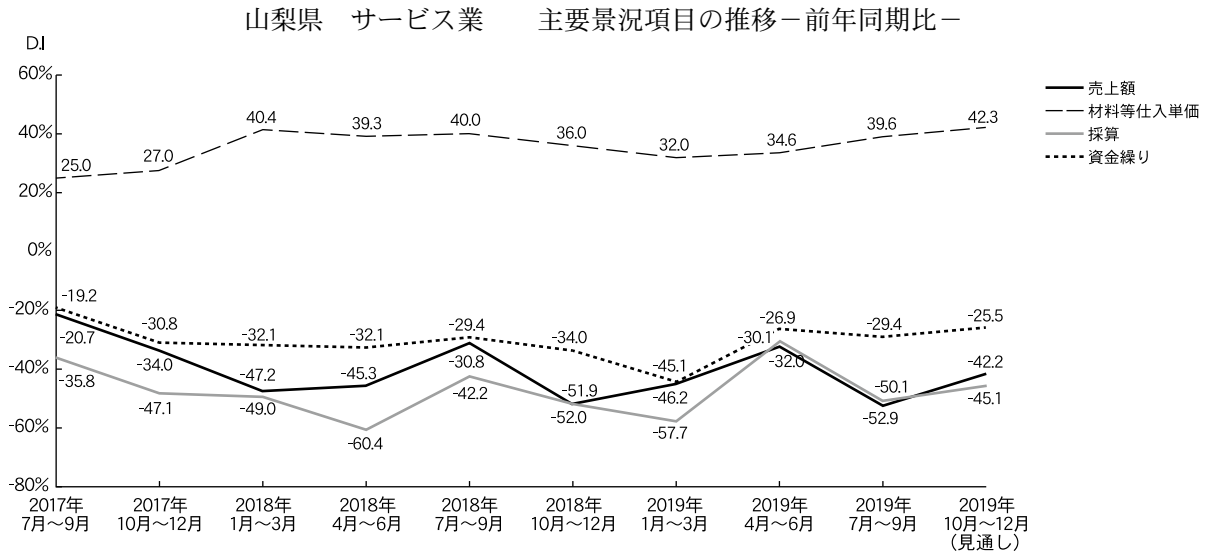
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	47	94.0	41	82.0
3人～5人以下	3	6.0	9	18.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100.0	50	100.0

5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲52.9と前期比で20.9ポイント悪化しているものの、来期は▲42.2と改善の見通しである。材料等仕入単価D Iは、今期は39.6と前期比で5.0ポイント上昇（悪化）している。来期は42.3とさらに上昇（悪化）する見通しである。採算D Iは、今期は▲50.1と前期比で20.0ポイント悪化しているものの、来期は▲45.1と改善の見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲29.4と前期比で2.5ポイント悪化しているものの、来期は▲25.5と改善の見通しである。

今期は、全てのD Iが悪化している。一方、来期は材料等仕入単価D Iを除いて改善の見通しである。

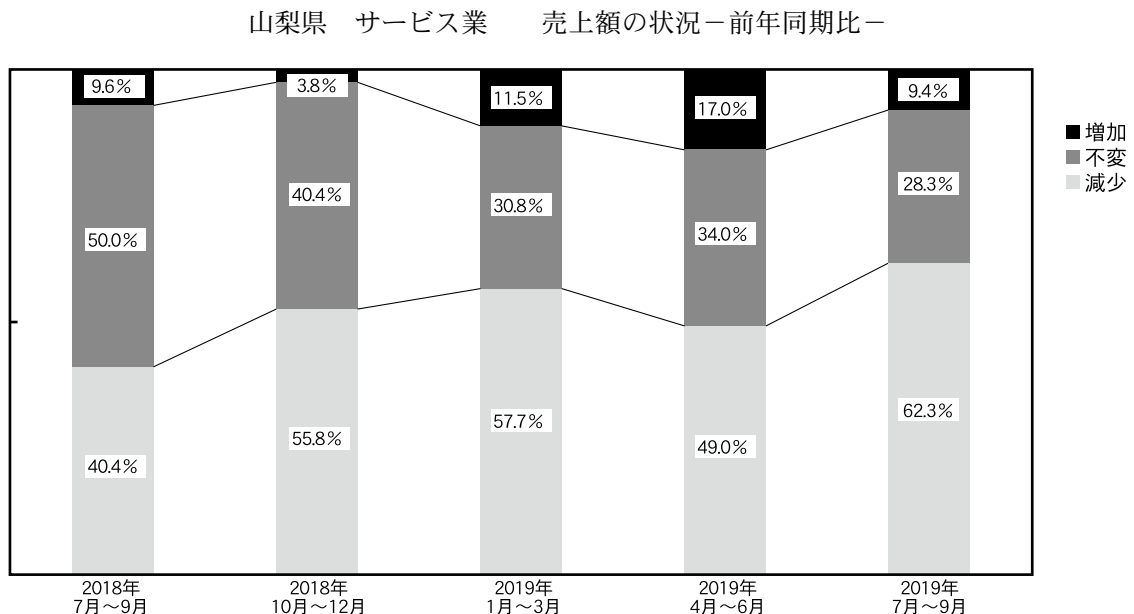


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数53社））

「増加」と答えた企業の割合は、9.4%（5社）と減少（前期比▲4社）している。

「不変」は28.3%（15社）と減少（前期比▲3社）、「減少」は62.3%（33社）と増加（前期比+7社）している。



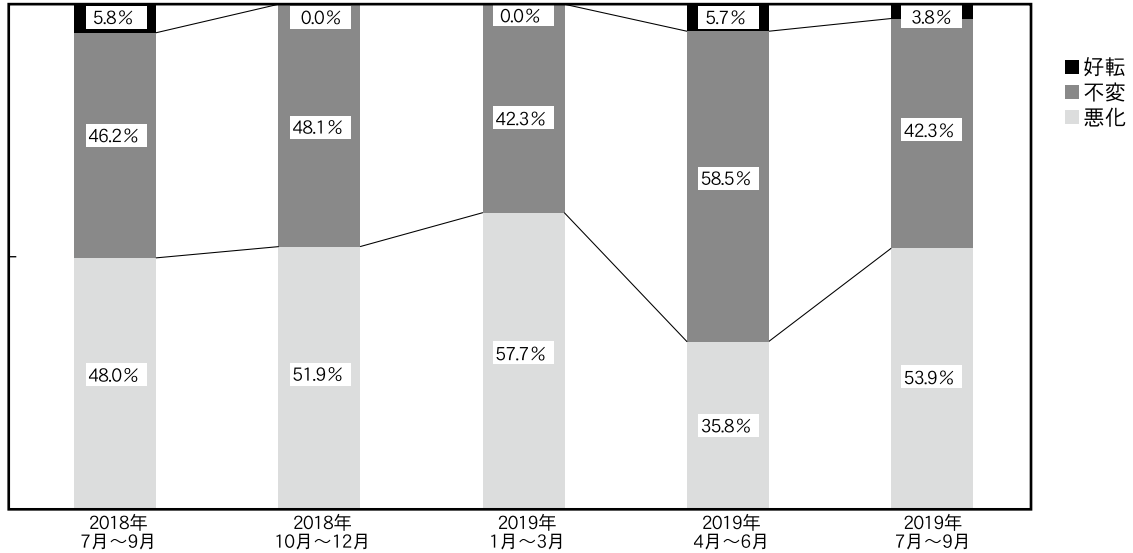
② 採算（採算D Iの内容（回答企業数52社（前回53社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、3.8%（2社）と減少（前年比▲1社）している。

「不変」は42.3%（22社）と減少し（前期比▲9社）、「悪化」は53.9%（28社）と増加（前期比+9社）している。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－

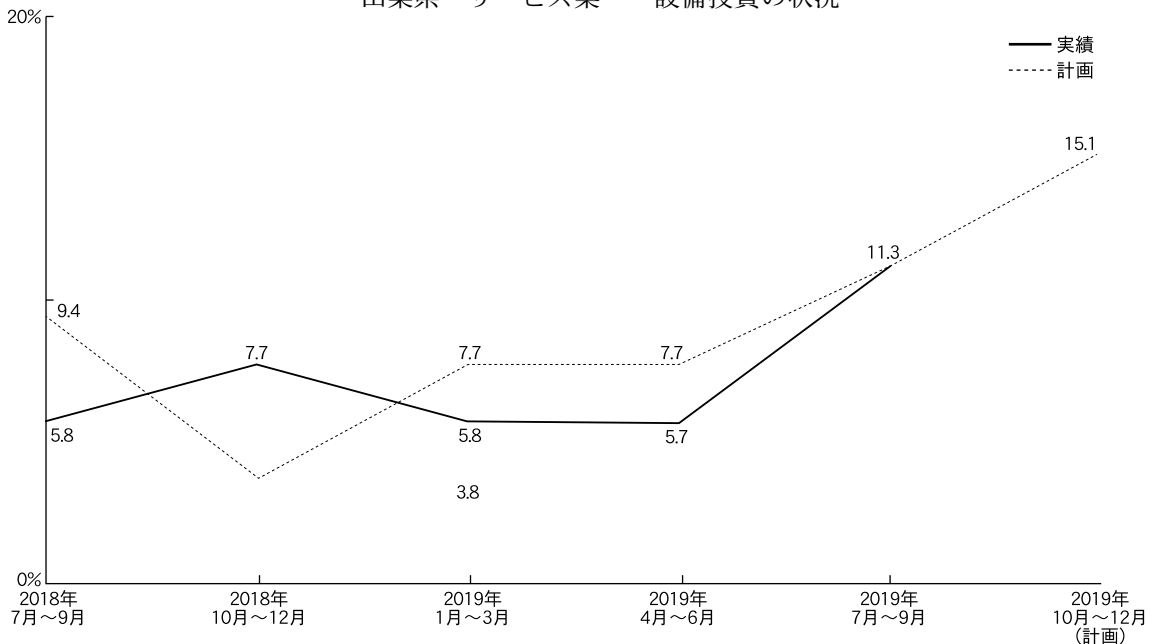


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は11.3%（6社）であった。その設備投資の内容は、「建物」「車両・運搬具」「付帯設備」が2件ずつであった。

来期の計画については、15.1%（8社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「サービス」「車両・運搬具」「付帯設備」「OA機器」が2件ずつ、「その他」が1件になる。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

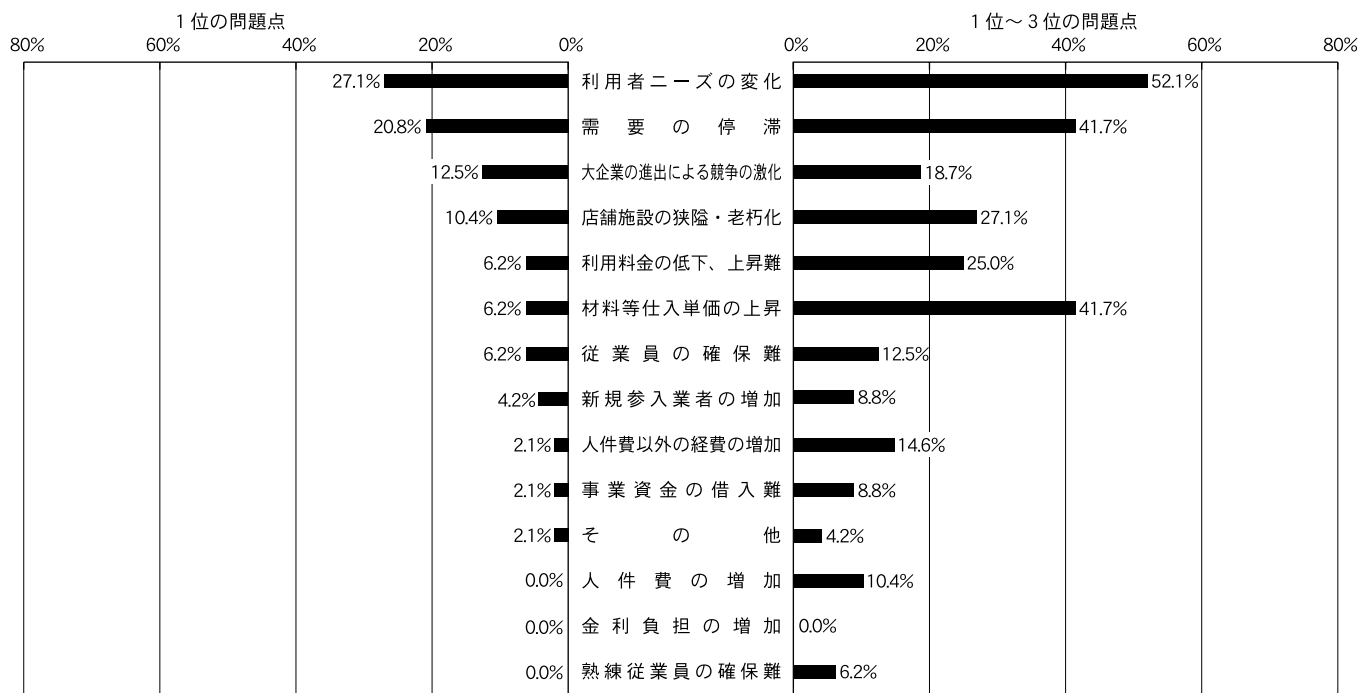
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の27.1%（13社）であり、2番目は、「需要の停滞」の20.8%（10社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の52.1%（25社）であり、2番目に多かったのは、「材料等仕入単価の上昇」と「需要の停滞」との同率41.7%（20社）である。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	35.8
宿泊業	7	13.2
運送業	2	3.8
自動車整備業	3	5.7
洗濯・理美容業	19	35.8
その他のサービス業	3	5.7
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	45	84.9	41	77.4
3人～5人以下	8	15.1	11	20.8
6人～10人以下	0	0.0	1	1.9
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	53	100.0	53	100.0